

## 附属学校最新情報紹介

|     |                         |    |       |
|-----|-------------------------|----|-------|
| 学校名 | 香川大学教育学部附属坂出小学校         |    |       |
| 役職  | 副校長                     | 氏名 | 藪内 雅昭 |
| 活動名 | デジタル教科書を使った指導に関する企業との連携 |    |       |

本校では令和3年4月より、国語科において教科書会社と連携し、デジタル教科書を用いた効果的な指導を探ったり、機能について教科書会社にアドバイスをしたりしています。

学校現場では1人1台端末が整備され、小中学校でのデジタル教科書の導入が本格化しつつあります。しかし、教科は英語などに限られ、指導者用デジタル教科書については整備されていないことがほとんどです。現場の先生方にとっては、何をどのように使えば学習効果が期待できるのか、模索している段階ではないでしょうか。



【指導者用デジタル教科書を使った授業】

附属学校は教育課題への先導的な取り組みが求められています。本校では教科書会社（M社）から国語科デジタル教科書の学習者用と指導者用のライセンス貸与を受け、学習指導に用いた結果を実践レポートにまとめたり、学習効果の検証に協力したりすることとしました。そして、実践の結果、次のような内容について明らかになってきました。

- ・ デジタル教科書の使用でつまづく場面とその対応
- ・ 学習支援アプリとの効果的な併用の仕方
- ・ 子どもの学年段階や特性に応じた活用方法
- ・ 活用しやすい国語科の領域
- ・ 各機能の有用性



【学習支援アプリとの併用】



【使い方のリーフレット】

企業連携の成果として、「最初の一步を踏み出すために」というリーフレットを作成することができました。これには、デジタル教科書を導入した初期段階での使い方や疑問点などについて、分かりやすくまとめています。このリーフレットを必要に応じて配付することで、教科書会社と本校の双方が学校現場の先生方の指導力向上、子どもたちの学力向上に貢献できると考えています。

今後はこの連携を継続し、より学習効果が期待できる使い方を探るとともに、デジタル教科書に求められる機能についても検討していきたいと考えています。また、活用事例について研究授業や実践提案で積極的に公開し、学校現場における指導に役立てていただきたいと思います。

|     |                  |          |
|-----|------------------|----------|
| 学校名 | 福井大学教育学部附属義務教育学校 |          |
| 役職  | 副校長              | 氏名 吉田 千春 |
| 活動名 | 第60回 文化祭         |          |

今年の文化祭はテーマ「逸祭楽祭(いっさいがっさい)」のもと福井市フェニックスプラザで行われ、60回という大きな節目を迎えるに当たり、特別企画「No War ～平和について考える～」が開かれました。この企画は、ロシアによるウクライナ侵攻が続く中、文化祭実行委員会を中心に、今年度4月から運営が進められてきたものです。本校は2018年以来、シンガポール国立大学附属高校との交流を続けており、この日は日本語コースで学ぶ生徒と意見交換を行いました。



第二次世界大戦中の歴史的事実を事前に学んだシンガポールの生徒は「戦争は多くの苦しみを生んだ」と述べ、平和な社会の実現には多様性を認め合うことが大切とし、多民族国家であることから多様な文化に触れる授業があることも紹介されました。本校生徒は、太平洋戦争中の福井大空襲など郷土の歴史を事前に学び、さらに「戦争の対義語は平和なのか」というテーマのもと、7年生から9年生の縦割り活動で意見交換に取り組んだ上で当日を迎えました。本校パネリストの生徒からは「誤った情報は争いを生む」「戦争がなくなっても環境問題や人種差別などがあれば平和とは言い切れない」といった平和とは何なのかを考えさせる言葉が伝えられ、国境を越えた対話を通して、この時代を生きる自分たちにとって大切なことは何なのかを皆が再考する時間になりました。

企画の最後、9年生文化祭実行委員長からは「国の体制や仕組みが違って平和を求めると同じだと感じた。平和の尊さを改めて学び、考えを深め、どうすれば平和な社会を築いていけるのかを考えていきたい」と述べ、これから取り組むべき方向性を会場全体に伝えました。

2022年9月20日 福井新聞より



シンガポール国立大附属高校の生徒とオンラインで意見交換した福井大附属義務教育学校(後期課程)の文化祭=19日、福井市のフェニックス・プラザ

## 附属学校最新情報紹介

|     |                   |    |  |
|-----|-------------------|----|--|
| 学校名 | 横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校 |    |  |
| 役職  |                   | 氏名 |  |
| 活動名 | スポーツマッチ           |    |  |

### 内容

保護者有志の主催で、毎年1学期と2学期に親子で楽しむ企画を実施しています。

オリンピックやサッカー・ラグビーW杯に発想を得た鎌リンピックや鎌小W杯、大盛り上がりだった運動会の得点の続きで最終決着をつけるリベンジ運動会のような体を動かす企画、ペットボトルロケットや紙飛行機大会など工作の工夫で記録を伸ばす企画など、幅広い内容で開催しています。

スポーツマッチでは、単に子供を集めて遊ばせるのではなく、学年横断でチームを作り上級生・下級生のそれぞれの役割で勝利を目指すこと、子どもだけでなく保護者が本気になって子供と向き合い遊ぶこと、を目標に企画しています。

今年の1学期は学校敷地内を目一杯に使った大・逃走中を開催しました。例年は子供だけで40～50人が集まっていたのですが、2020年・2021年の2年間は開催できなかったこともあり、100人を超える子供たちが集まりました。ハンター役の保護者も普段の生活では本気で子どもと走り回ることには無いので、終わった後の疲労と充実感があふれる笑顔が印象的でした。2学期は「鎌倉小の13人」と銘打ち、スポーツチャンバラを開催します。

遊びはアイデアの宝庫です。どうやってチームをまとめ・楽しみ・勝つか。私たちが小学生のころのような、あるもので工夫して遊びを考えることがなかなか出来なくなってきた昨今、学校生活以外の場で、決められたルールの中で自由な発想とリーダーシップを発揮できる上級生、そんな上級生の背中を追いかける下級生の成長と共に、親子の絆が深まることを期待しています。



2019年ラグビーW杯の年はタグラグビーを開催  
子どもだけでなく大人も楽しみました



開催案内は子供の興味を引くデザインに



図工室ではペットボトルを工夫して作る姿も  
大人も子供も最大飛距離を出すために真剣です



オリンピックの年にはオリン  
ピック競技を模した内容も！

附属学校最新情報紹介

|     |             |    |       |
|-----|-------------|----|-------|
| 学校名 | 福岡教育大学附属幼稚園 |    |       |
| 役職  | 園長          | 氏名 | 木部 里美 |
| 活動名 | 夕涼み会        |    |       |



メイン会場(遊戯室)の飾り



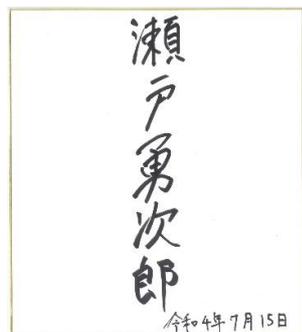
スライム屋さん



盆踊り



手作りキャンドルの集い



7月15日金曜日、附属幼稚園で夕涼み会を行いました。午前中は、年少ちゅうりっぷ組・年中さくら組の子どもたちが、年長ぽぷら組手作りの水ヨーヨー屋さん、転がしゲーム屋さん、スライム屋さん、射的屋さんのお店に招かれ、チケットと景品を交換しながら、楽しいひとときを過ごしました。午前中保育を終え、いったん降園した後、午後は、ぽぷら組の子どもたちが楽しむ番です。夕方5時30分に再登園し、職員劇を堪能した後、盆踊りを踊りました。テラスには、手作り灯籠を提げて明かりを灯し、キャンドルに願いごとをするなど、夕暮れならではの楽しみもありました。

また、栽培や遊びの提案・指導をいただいている、大学の先生方に続き、東京パラリンピックメダリスト瀬戸勇次郎選手が登場するなど、サプライズ続きで、大歓喜に沸く子どもたち。選手の銅メダルをさわらせてもらったり、似顔絵をかいた手作り金メダルを一人ずつ渡したりして、交流しました。

さっそく7月17日の西日本新聞朝刊「超短波」のコーナーに掲載され、子どもたちや保護者の皆さんと喜びを分かち合いました。これからも貴重な体験を通して、さらに成長することを期待しています。



手作り灯籠



ヨーヨー屋さん



ゲストの先生方



瀬戸選手登場！



銅メダル触らせて！

**超短波**

福岡県宗像市の福岡教育大附属幼稚園を15日夜、同大に在学する東京パラリンピック柔道銅メダリスト瀬戸勇次郎選手が訪れ、園児手作りの「金メダル1位だよ」と激励した。

園児たちは似顔絵を描いた折り紙のメダルを瀬戸さんの首にかけて渡し、「これからは頑張るよ」と語りかけていくと嬉しい。「好き」という気持ちを忘れずに頑張ろう」と語りかけた。

瀬戸さんは同大4年だった昨年、パラ五輪の視覚障害者柔道男子66kg級に初出場。獲得した銅メダルを見せながら、「僕は4歳から柔道を始めた。うまくはなけれど、新しいことができるよと嬉しい。『好き』っていう気持ちを忘れずに頑張ろう」と語りかけた。

園児たちは似顔絵を描いた折り紙のメダルを瀬戸さんの首にかけて渡し、「これからは頑張るよ」と語りかけていくと嬉しい。「好き」という気持ちを忘れずに頑張ろう」と語りかけた。

ルに笑顔を見せた。写真。瀬戸さんは同大4年だった昨年、パラ五輪の視覚障害者柔道男子66kg級に初出場。獲得した銅メダルを見せながら、「僕は4歳から柔道を始めた。うまくはなけれど、新しいことができるよと嬉しい。『好き』っていう気持ちを忘れずに頑張ろう」と語りかけた。

2022年7月17日 西日本新聞朝刊「超短波」